

しかし、どうして、一部の人にだけ、まだらに脱色素斑が生じたのかという病態はまだ十分解明できていません。これは今後の課題であり、特別委員会では病態解明の研究を進めています。今後、確かな情報を得ることができましたら報告してまいります。

Q26. ほかの化粧品で脱色素斑を生じたのではないかと受診する患者さんがありますか？

A26. ロドデノール含有化粧品のみでなく、少数例ですが、他の美白化粧品で同様の脱色素斑を生じたという報告がありますが、いまは確かなデータがありません。厚生労働省では私たち皮膚科医から化粧品企業に情報が届いていないか、調査をしています。もし、皮膚炎や脱色素斑の症例がある場合は、「もしかして化粧品が原因である可能性はないか？」ということ念頭に、発症の時期と使用していた化粧品の情報などを、「ロドデノールを含有しない化粧品の使用による脱色素症例調査票」に沿って患者の問診と臨床所見をとって記載してください。検査、治療についても記入欄があり、支障なく診察ができるように配慮されています。記載いただいた調査票は、下記の日本皮膚科学会 ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会事務局まで、PDF または FAX、郵送にて送付ください。その際、患者個人情報（氏名、カルテ番号）は削除してご報告ください。特別委員会から製造販売業者と厚生労働省安全対策課に報告いたします。なお、ロドデノールを含有しない化粧品を使用した後に発生した脱色素斑については、本特別委員会では調査や、病態解明を行うことはいたしません。

【送付先】

日本皮膚科学会 ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-4
E-mail : gakkai@dermatol.or.jp FAX : 03-3812-6790

資料 1-1

一次調査票（医師記入）

施設名： _____
 施設住所：〒 _____ Tel： _____
 記入日：20 ____ 年 ____ 月 ____ 日 記入者： _____
 e-mail： _____

□患者背景：
 患者 ID： _____ 年齢：満 ____ 歳 性別 女性 男性
 □職歴：現在の職業：主婦 会社員 その他（ _____ ）
 これまでにフェノール・フェノール化合物（注1）への暴露：なし あり 不明
 □家族歴：尋常性白斑 なし あり、その他の家族歴：なし あり（ _____ ）
 □既往歴：尋常性白斑 なし あり 花粉症：なし あり（ ____ 月頃）
 蕁麻疹：なし あり（原因物質 _____ ） アトピー性皮膚炎：なし あり
 接触皮膚炎：なし あり（原因物質 _____ ） 喘息：なし あり
 脱毛症：なし あり 糖尿病：なし あり（I型・II型）
 尋常性乾癬：なし あり アジソン病：なし あり
 癩風：なし あり 膠原病：なし あり（ _____ ）
 甲状腺疾患：なし あり（ありの場合病名 _____ ）
 白斑黒皮症を誘発する薬剤（注2）の服用歴：なし あり

□これまでの化粧品使用歴
 1) ハイドロキノン製品：なし あり（ハイドロキノン濃度： ____ %、期間： ____ 年～ ____ 年）
 →ありの場合、皮膚トラブル： なし あり
 2) ロドデノール以外の美白化粧品：なし あり（商品名： _____ 期間： ____ 年～ ____ 年）
 →ありの場合、皮膚トラブル なし あり
 3) 染毛剤の使用歴：なし あり（期間： ____ 年前から、頻度： ____ に1回）
 →ありの場合、皮膚トラブル： なし あり
 4) 育毛剤の使用歴：なし あり（商品名： _____ 期間： ____ 年～ ____ 年）
 →ありの場合、皮膚トラブル なし あり

□写真
 1) 色素脱失部位の臨床写真： なし あり
 2) 色素脱失部位のダーモスコピー写真： なし あり
 3) 紅斑など炎症部位の臨床写真： なし あり
 4) 色素沈着部位の臨床写真： なし あり
 5) 特別委員会への写真の提供の可否： できる できない

* 写真を提供される場合には、患者の同意をお願いします。

□臨床症状
 1) 発症年月：20 ____ 年 ____ 月（満 ____ 歳）（患者申告）
 2) 色素脱失の型（臨床的）： 完全脱色素斑・ 不完全脱色素斑・ 両方の混在
 3) 色素脱失の部位：顔面 頸部 手背 前腕 上腕 その他（ _____ ）
 4) 色素脱失の面積：顔面 領域の 0-25%程度、25-50%程度、ほぼ全面
 頸部 領域の 0-25%程度、25-50%程度、ほぼ全面
 手背 領域の 0-25%程度、25-50%程度、ほぼ全面
 前腕 領域の 0-25%程度、25-50%程度、ほぼ全面
 上腕 領域の 0-25%程度、25-50%程度、ほぼ全面
 5) 製品を使用していた部位：顔面 頸部 手背 前腕 上腕 その他（ _____ ）
 6) 製品を使用していた部位に紅斑、掻痒、鱗屑などの炎症症状：なし あり

資料 1-1

- 7) 製品を塗布した部位と炎症部位の一致：概ね一致 一致していない
 →一致していないとき：無塗布部位に炎症症状あり 塗布部辺縁より広範囲な炎症症状
- 8) 製品を塗布した部位と色素脱失の部位の一致：概ね一致 一致していない
 →一致していないとき：無塗布部位に色素脱失あり 塗布部辺縁より広範囲な色素脱失
- 9) 製品を使用していない部位の色素脱失： なし あり（部位 ）
- 10) 光線過敏症（臨床的、患者の自覚的）： なし あり 不明
- 11) 尋常性白斑であると診断できる： できる できない 判定不能
- 12) 色素沈着の有無： なし あり
- 13) 色素脱失と色素沈着が混在している（白斑黒皮症の所見）： なし あり

□検査

- 1) 血液検査： なし あり（可能なら、抗核抗体 抗サイログロブリン抗体 抗ペルオキシダーゼ抗体、TSH、FT3、FT4 を測定）
- 2) 皮膚生検の有無： なし あり 予定あり（予定時期 月 日）
- 3) パッチテストの有無： なし あり 予定あり（予定時期 月 日）
- 4) MED 測定： なし あり→UVA の MED J/cm² 短縮あり 短縮なし
 UVB の MED mJ/cm² 短縮あり 短縮なし

□治療：なし（＝経過観察のみ） あり（薬剤名； ）

□経過

- 1) ロドデノール含有製品を使用中止してからの期間： 年 ヶ月
- 2) 貴施設での観察期間： 年 ヶ月
- 3) 色素脱失の状態：治癒 軽快 不変 増悪

注1 これらの化学物質は接着剤、インキ、ワニス、各種合成樹脂改質剤、香料原料、殺虫剤、殺菌剤、ゴム酸化防止剤、塩化ビニル安定剤原料、界面活性剤などの酸化防止剤、オイル添加剤などに含まれる。

注2 白斑黒皮症を誘発する薬剤

サイアザイド系利尿薬	ヒドロクロロチアジド、クロロチアジド
他の利尿薬	メチクラム
抗菌薬	テトラサイクリン、フレロキサシン、グリセオフルビン
筋緊張治療薬	アフロクアロン
非ステロイド抗炎症薬	チアプロフェン酸
β遮断薬	ピンドロール

資料 1-2

一次調査票(患者記入) * 使用した製品にのみ記入してください

販売名	商品名	使用開始	使用終了	使用個数	使用回数	使用部位
カネボウ suisai ホワイトニングエッセンス	suisai ホワイトニングエッセンス	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウ ホワイトニング エッセンスS	アクアリーブ MCT ホワイトニングエッセンス	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
インプレス IC ホワイトエマルジョンI	インプレス IC ホワイトエマルジョンI	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
インプレス IC ホワイトエマルジョンII	インプレス IC ホワイトエマルジョンII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
インプレス ローションb	インプレス グランミュラローション	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
インプレス IC WTマスク	インプレス IC ホワイトフィットマスク3D	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
インプレス IC WTローションc	インプレス IC ホワイトローションI	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
インプレス IC WTローションe	インプレス IC ホワイトローションII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウ CNローションI	トワニー センチュリー ザ・ローションI	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウ CNローションII	トワニー センチュリー ザ・ローションII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
トワニー エスティチュードホワイト ローションI	トワニー エスティチュードホワイト ローションI	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
トワニー エスティチュードホワイト ローションII	トワニー エスティチュードホワイト ローションII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
トワニー エスティチュードホワイト ローションIII	トワニー エスティチュードホワイト ローションIII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
トワニー エスティチュードホワイト UVプロテクトセラム	トワニー エスティチュードホワイト UVプロテクトセラム	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
トワニー エスティチュードホワイト マスク	トワニー エスティチュードホワイト クリアタイトマスク	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
トワニー エスティチュードホワイト ヴェイルミスト	トワニー エスティチュードホワイト αセラム限定セット 12S	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングローションm	ブランシールスベリアホワイトディーブクリアコンディショナーII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングローションr	ブランシール スベリア ホワイトディーブクリアコンディショナーIII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングローション	ブランシールスベリアホワイトディーブクリアコンディショナーI	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングミルクm	ブランシール スベリア ホワイトディーブミルクコンディショナーII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングミルク	ブランシール スベリア ホワイトディーブミルクコンディショナーI	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングクリームG	ブランシール スベリア ホワイトディーブナイトコンディショナーI(ジェル)	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングクリームC	ブランシール スベリア ホワイトディーブナイトコンディショナーII(クリーム)	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングクリーム	ブランシール スベリア ホワイトディーブナイトコンディショナーI	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングクリームm	ブランシール スベリア ホワイトディーブナイトコンディショナーII	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングUVエッセンス	ブランシール スベリア ホワイトディーブUVタイプロテクター	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
カネボウB ホワイトニングマスク	ブランシール スベリア ホワイトディーブマスク	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《N》	リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《N》	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《OD》	リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《OD》	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《D》	リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《D》	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《Op》	リサーチ ホワイト スキンメインテナイザー《Op》	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
リサーチ ホワイト ホワイトニング リペアクリーム	リサーチ ホワイト ホワイトニング リペアクリーム	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
リサーチ ボーテ サークュリッドa	リサーチ ボーテ サークュリッドa	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
エキップ RMK スキンチューナー ブライトニング ライト	RMK スキンチューナー ブライトニング ライト	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
RMK スキンチューナー ブライトニング モイスト	RMK スキンチューナー ブライトニング モイスト	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
RMK インテンシブ ブライトニング エッセンス	RMK インテンシブ ブライトニング エッセンス	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
SUQQU ホワイトニング ローション	SUQQU ホワイトニング ローション	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
SUQQU ホワイトニング バリア エマルジョン	SUQQU ホワイトニング バリア エマルジョン	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕
SUQQU ホワイトニング リペア エッセンス	SUQQU ホワイトニング リペア エッセンス	年 月	年 月		1日 回	顔・首・手・上腕

資料2

<ロドデノール誘発性脱色素斑 二次調査票> HP

施設名 _____ 施設住所 _____

年齢 _____ 歳 性別 女 男 _____

- 1) 本例は一次調査票を日本皮膚科学会事務局に送付した症例ですか？
 一次調査票を送付した → 一次調査の施設内登録番号 No(_____)
 一次調査票は送付していない(* 二次調査票のみの症例でも提出可能です)
 施設内登録番号 No(_____)

2) 初診時の脱色素斑の状態について

- ① 初診時:カネボウの分類ではどれに当てはまりますか？
 1 顔面、頸部、手など広範囲にわたり、明らかな脱色素斑がある
 2 「3 箇所以上の脱色素斑」、「5cm 以上の脱色素斑」、「顔に明らかな脱色素斑」のいずれかに該当する
 3 上記のいずれにも該当しない。
 ② 初診時:別紙1の脱色素斑スコアの評価点は何点ですか？
 1 初診時(_____)点 2 初診時の評価が困難 3 その他(_____)

↓ 経過が判る症例のみ下記以降へ回答を継続してください。

3) 別紙2の診断基準では、本例はどちらでしょうか？

- 1 確実例 2 疑い例

4) 別紙2の臨床分類では、本例はどれに当てはまりますか？

- 1 完全脱色素斑優位型 2 完全・不完全脱色素斑混合型 3 不完全脱色素斑優位型

5) 調査記入時での下記の期間を教えてください(1年=12ヶ月として月数で記載)。

- ・貴院での経過観察期間: _____ ヶ月
 ・患者がロドデノール含有化粧品を中止してからの期間: _____ ヶ月

6) 貴院での経過観察期間に治療をしていますか

- 1 治療あり 2 治療なし

7) 「治療あり」の場合の治療内容を記載してください。

- ・内服: なし あり: 薬剤名: _____
 ・外用剤: なし あり: 薬剤名: _____
 ・紫外線: なし あり: エキシマライト、 NB-UVB
 その他の紫外線(_____)

・その他の治療をしている場合: 具体的に下記に記載

8) 症状の経過を記載してください

- ① 非脱色素斑部(脱色素斑周囲、健常部)の色調について
 1 色素の増強を認めており、まだ健常皮膚に戻らない
 2 一時色素増強を認めたが、その後健常皮膚色に戻っている。
 3 色素増強なく色素が再生している
 ② 脱色素斑部面積:
 1 脱色素斑面積は増えている
 2 脱色素斑面積はかわらない
 3 脱色素斑面積は最初の面積よりも減っているがまだ最初の 1/2 以上残っている。
 4 脱色素斑面積は最初の面積の 1/4-1/2 程度になっている
 5 脱色素斑面積は最初の面積の 1/4 以下になっている
 6 脱色素斑はほぼなくなっている

資料2

9) 脱色素斑部や色素増強、患者の自覚(精神的ストレス)を含めて総合的に判断した症状の経過の評価
 1() 治癒、2() かなり軽快 3() 軽快 4() やや軽快 5() 不変 6() 増悪

10) これまでの経過をロドデノール含有化粧品使用中止後1か月、3か月、6か月、それ以上の期間で脱色素斑部の評価が可能な症例については、評価をお願いします。

	カネボウ分類	脱色素斑スコア
	1: 顔面、頸部、手など広範囲にわたり、明らかな脱色素斑がある 2: 「3箇所以上の脱色素斑」、「5cm以上の脱色素斑」、「顔に明らかな脱色素斑」のいずれかに該当する 3: 上記のいずれにも該当しない。	* 別紙を参考にして脱色素斑を点数で評価+S: 当該化粧品を塗布していない部位に脱色素斑が生じて拡大している場合に点数の末尾につける +α: 1-6の部位以外に脱色素斑が生じている場合に数値の末尾につける
初診1ヶ月後	カネボウ分類()・評価困難	スコア点数()・評価困難
初診3ヶ月後	カネボウ分類()・評価困難	スコア点数()・評価困難
初診6ヶ月後	カネボウ分類()・評価困難	スコア点数()・評価困難
初診()ヶ月後	カネボウ分類()	スコア点数()


10) その他、ご意見や本症例に特異な点があれば、下記に記載してください

資料3

別紙1 脱色素斑スコア点数シート

*このシートは二次調査票とともに送付する必要はありません。

患者ID _____ 平成 年 月 日 評価者 _____

A 部位	B 脱色素斑の白さの評価	C 脱色素斑の広さ	D 小計(B×C)
	脱色素斑なし 0点	0% 0点	
	不完全脱色素斑 1点	1-25% 1点	
	完全脱色素斑 2点	26-50% 2点	
		50-75% 3点	
		76-100% 4点	
	不完全脱色素斑と完全脱色素斑が混在する場合には2点とする	脱色素斑/評価部位の総面積	
1 前額部			
2 両眉毛・両上下眼瞼部・両外眼角部			
3 両頬			
4 鼻部・口周囲			
5 顎下・前頸部・側頸部			
6 両手背・指間			
その他の部位 () () () ()		合計 脱色素斑スコア (+α、+Sは必要あれば 数値の後に付ける)	

注1) 脱色素斑スコアは上記の1~6部位を評価して点数化し、合計してください。

注2) 上記1~6の部位以外に脱色素斑が生じている場合は、合計の点数に“+α”と追加して記載してください。(例 24+α)

注3) ロドデノール含有化粧品を外用していない部位に脱色素斑が生じて拡大している場合は、合計の点数に“+S”を追加して記載してください。(例 24+S、24+α+S)

注4) 上記1~6以外に脱色素斑が生じている場合は「その他の部位」にその場所を記載してください。

資料3

別紙2 疾患概念と診断基準、臨床分類

【疾患概念】

ロドデノール誘発性脱色素斑 Rhododenol induced-leukoderma とはロドデノール含有化粧品を使用後、主に使用部位に生じる様々な程度の脱色素斑。使用中により一部あるいは全体に色素再生が見られることが多い。

【診断基準】

必須項目

1. ロドデノール含有化粧品を使用していた。
注)患者申告 購入履歴 回収記録を根拠に判断する。
2. ロドデノール含有化粧品を使用する前には脱色素斑がなく、使用後、使用した部位におおむね一致して生じた完全ないし不完全脱色素斑がある。

小項目

1. 使用中により(必須項目 2. の)脱色素斑の拡大が使用中後およそ1か月以内に停止した。
 2. 使用中により(必須項目 2. の)脱色素斑の少なくとも一部に色素が再生した。
- 注)写真や診療録、ダーモスコピー所見などの記録を参照し、医師が視診により重症度判定基準を用いて判定する。

参考項目

1. 脱色素斑出現前に紅斑などの炎症症状の先行を見る場合がある。
2. 脱色素斑の程度は一樣ではなくむらがあり、辺縁不整の場合が多い。
3. 複数のロドデノール含有化粧品を併用した場合や繰り返し塗布した部位に発症しやすい。

除外診断

Vogt-小柳-原田病、サットン母斑、感染症(癜風、梅毒、Hansen 病、HIV)に伴う白斑、単純性秕糠疹、老人性白斑、尋常性白斑、他の原因による炎症後脱色素斑、薬剤性の白斑黒皮症、職業性白斑、まだら症、Waardenburg 症候群、結節性硬化症などの先天性色素異常症などを除外する。

判定

必須項目 2 項目と小項目の少なくとも 1 項目を満たす場合は**確実例**とする。
 必須項目 2 項目を満たすが、小項目の 1、2 ともに満たさない場合はその時点では**疑い例**とする。
 疑い例については引き続き注意深く色素再生の有無を経過観察する事が望ましい。
 注)このような症例には、尋常性白斑の合併例、誘発例が含まれる可能性がある。しかし、臨床像および病理学的所見から尋常性白斑とロドデノール誘発性脱色素斑を鑑別することは困難な場合があり、診断には細心の注意が必要である。

【臨床分類】

- ① 完全脱色素斑優位型
完全脱色素斑のみ、もしくは完全脱色素斑優位(脱色素斑面積全体のうち 6 割以上が完全脱色素斑)
- ② 完全・不完全脱色素斑混合型
完全脱色素斑と不完全脱色素斑優位がほぼ同じ割合いで混在する
- ③ 不完全脱色素斑優位型
不完全脱色素斑のみ、もしくは不完全脱色素斑優位(脱色素斑面積全体のうち 6 割以上が不完全脱色素斑)

香粧品パッチテスト 2009 年のまとめ

古田加奈子¹⁾, 伊佐見真実子¹⁾, 矢上 晶子¹⁾, 鶴田 京子¹⁾,
田中 紅¹⁾, 美浦麻衣子¹⁾, 廣川 景子²⁾, 亀山 梨奈¹⁾,
稲葉弥寿子¹⁾, 鈴木加余子³⁾, 松永佳世子¹⁾

要 旨

目的：2009 年の当科における香粧品による接触皮膚炎および原因製品の動向について検討した。

方法：2009 年に香粧品による接触皮膚炎の疑いで当科を受診した症例に対して、パッチテスト（以下 PT）を施行した。PT は患者が持参した香粧品とジャパニーズスタンダードアレルゲンシリーズおよび化粧品関連アレルゲン、ヘアケア・ヘアダイ関連アレルゲンを患者の背部に 48 時間閉鎖貼布し、72 時間または 1 週間後に International Contact Dermatitis Research Group 基準で + 以上を陽性とした。

結果：80 例に PT を施行した。香粧品 PT が陽性で臨床的な関連性が考えられたものは 24 症例、36 製品であった。陽性製品の内訳はヘアダイ 10 件、シャンプー 7 件、化粧水 5 件、ボディクリーム 3 件、リンス 2 件、美容クリーム 2 件、ファンデーション 2 件、洗顔料、美容液、美容マスク、整髪料、アイライナーがおのおの 1 件ずつであった。ヘアダイ皮膚炎の 9 例中 2 例は *o*-aminophenol (OAP) に単独陽性であった。また、成分 PT で美白成分である 5,5'-ジプロピル-ビフェニル-2,2'-ジオールに陽性反応を呈した症例を経験し、新規アレルゲンと同定した。

結論：過去 3 年間の報告と比較すると、2009 年は染毛剤、シャンプー、化粧水の陽性例が多く、口紅陽性例を認めなかった。

(J Environ Dermatol Cutan Allergol, 7 (1) : 34-43, 2013)

キーワード：接触皮膚炎、パッチテスト、香粧品、*o*-aminophenol (OAP)、5,5'-ジプロピル-ビフェニル-2,2'-ジオール

はじめに

これまで香粧品は安全性を確保するための研究が盛んに行われてきたが、近年はさらにその有用性（保湿、紫外線防御、老化防止等）が注目され、性別や年齢を問わず、香粧品により生活の質（Quality of life : QOL）を向上させる時代へと変化している。それに伴い、さまざまな有効成分あるいは添加物の含まれた新しい製品が開発され、新規アレルゲ

ンによる接触皮膚炎が生じる可能性が懸念される。

われわれは、香粧品によるアレルギー性接触皮膚炎の頻度と原因製品、原因アレルゲンの動向を知るために、1992 年以降当科における香粧品による接触皮膚炎の症例をまとめて報告してきた¹⁻⁵⁾。香粧品による接触皮膚炎の原因を明確にし、報告することにより集積されたデータは製品開発・改良のために有用であると考えられる。今回は、2009 年に当科を受診し、香粧品による接触皮膚炎を疑いパッチテス

¹⁾ 藤田保健衛生大学医学部皮膚科学

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

²⁾ 津島市民病院皮膚科

³⁾ 刈谷豊田総合病院皮膚科

連絡先：古田加奈子

掲載決定日：2012 年 9 月 11 日

ト（以下PT）を施行した80症例について検討したので報告する。

対象および試験方法

1. 対象

2009年1月から12月までに当科で化粧品による接触皮膚炎および口唇炎を疑いPTを施行した患者80例（男性11例；11～59歳，平均年齢38.5歳，女性69例；18～76歳，平均年齢40.6歳）を対象とした。

2. 試料

1) 患者が持参した化粧品

シャンプー，リンス，トリートメント，ボディソープ，洗顔料，フェイスパック，菌磨き粉は1%水溶液を用い，その他の製品はそのまま貼布した。染毛剤，パーマ液，マスカラはオープンテストを施行した。成分パッチテストの試料は，その化学物質のパッチテスト至適濃度，製品中の含有濃度，化学的性質などを考慮し，貼布濃度を決定した。

2) Japanese standard allergen 2008，ヘアケア・ヘアダイ関連アレルゲンおよび化粧品関連アレルゲン

Japanese standard allergen シリーズ（以下JSシリーズ）（Table 1）を78例に貼布した。36例に化粧品関連アレルゲン（Table 2）を貼布した。ヘアケア製品による接触皮膚炎を疑った13例にはヘアケア・ヘアダイ関連アレルゲン（Table 3）を貼布した。

3. 方法および判定

試料は Finn chamber[®]（EPITEST Ltd. Oy. Hyryla Finland）on Scanpor[®]（Actavis Norway AS）を用いて，患者の背部または上腕外側に48時間閉鎖貼布した。ユニット除去1時間半後に1回目の判定を行い，その24時間後に2回目の判定（貼布72時間後判定），貼布1週間後に3回目の判定（1週間判定）を行った。判定には International Contact Dermatitis Research Group（ICDRG）基準を用い，72時間または1週間後に+以上を陽性と判定した。

結 果

化粧品による接触皮膚炎および口唇炎を疑いPTを施行した80症例のうち，持参化粧品または関連アレルゲンに陽性反応を呈し，臨床症状との関連性があると判断した化粧品接触皮膚炎は24例（30.0%）であった。

Table 1 : Japanese standard allergen 2008

Allergens	Conc./veh.
Cobalt chloride	1% pet.
Nickel sulfate	2.5% pet.
Thiuram mix	1.25% pet.
PPD black rubber mix	0.6% pet.
Mercapto mix	2% pet.
Caine mix	7% pet.
Fradimycin sulfate	20% pet.
Balsam of Peru	25% pet.
Rosin	20% pet.
Fragrance mix	8% pet.
Dithiocarbamate mix	2% pet.
Paraben mix	15% pet.
<i>p</i> -Phenylenediamine	1% pet.
Lanolin alcohol	30% pet.
<i>p</i> -tertiary-Butylphenol formaldehyde resin	1% pet.
Primin	0.01% pet.
Urushiol	0.002% pet.
Thimerosal	0.05% aq.
Mercuric chloride	0.05% aq.
Formaldehyde	1% aq.
Kathon CG	0.01% aq.
Epoxy resin	1% pet.
Sesquiterpene lactone mix	0.1% pet.
Potassium dichromate	0.5% aq.
Gold sodium thiosulfate	0.5% pet.

aq : aqueous solution

pet : petrolatum

PPD : *p*-Phenylenediamine

1. 年齢，性別，職業

24例の内訳は男性6例，女性18例であった。年齢分布は，男性は18～59歳（平均31.8歳），女性は23～76歳（平均40.9歳）で，20代女性（7例）と50代女性（6例）に多かった（Fig. 1）。職業は美容師6例，主婦3例，大学生2例，会社員2例，不明5例であり，美容師の6例は全例が染毛剤もしくはヘアケア・ヘアダイ関連アレルゲンに陽性であった。

2. 製品PT

陽性反応を呈した24例を製品分類別（重複を含む）にみると，染毛剤が10件と最も多く，ついでシャンプー7件，化粧水5件，ボディクリーム3件，リンス，美容クリーム，ファンデーションがおのおの2件，美容液，美容マスク，洗顔料，整髪料，アイライナーがおのおの1件ずつであった（Fig. 2）。